

2022年10月2日～10月8日 各家庭でのディボーション用テキスト

エサウが信仰を持っていたとは、どこにも書いてありますまい。だから肉欲のみが支配する場合に（何の信仰もそれに抵抗することのないような人にあることですが）、その長子の特権も魂も何もかも売ってしまう、しかも地獄の悪魔に売ってしまうとしても何も驚くことはないのです。そういう人は「その欲情をだれがとどめることができようか」と言われたろばのようなものです。【エレ2：24】彼らの心はその欲情に執着するときには、いかなる犠牲を払ってもそれを得ようとします。しかし薄信者はそれとは違う性質で、彼の心は神聖な事にあつたのです。彼の生活は上からの、霊的な事にありました。だからこのような性質の者が何のために、その宝石を売って空しい物で心のみたそうとするのでしょうか（たとえそれを買いたいと思う者があつたにせよ）。乾草で腹のみたそうとして一ペニーでも払う人がありましようか。また山ばとを説得してからすのように腐れ肉を食って生きさせることができましようか。信仰のない者は肉欲のためにその持ち物ばかりか、自分自身までも質に入れたり、抵当にしたり、売ったりすることができますが、信仰、人の魂を救うだけの信仰のある者は、たとえほんの少ししかない者でも、そんなことはできません。だからここに君の誤りがあるのです。

有望者 私もそれは認めます。ですが、あなたのきびしい非難のお言葉にはつい私も腹が立ちそうになりましたよ。

基督者 いや、私はただあなたを頭に卵の殻をつけたまま、まだだれも通つたことのない道をあちこち走りまわる元気のよい種類の鳥にたとえただけの話です。だが、それはまあそのくらいにして、今議論している問題を考えてみましょう。そうすれば君と私の間も丸く納まるでしょう。

有望者 ところで基督者さん、私は心の中に確信しているのですがね、この三人の男は卑怯な連中に過ぎないと思うのです。そうでなければ、路をやって来た一人の人の足音を聞いてあのように逃げると思いませんか。なぜ薄信者はもっと勇気を奮い起こさなかつたのでしょうか。一番立ち合つてみて、いかにも仕方がなくなつた時降参してもよかつたと思ひますがね。

基督者 彼らが卑怯者だと言つた人は沢山ありますが、試練の時にもそう思つた人はあまりないものです。大きな勇気はといえば、薄信者にはそれが少しもなかつたのです。もし君がその本人であつたら、一番立ち合つて、しかる後に降参するまでだということは分かりました。ところで実際今君が遠く離れているとき、君の勇気の絶頂がこのくらいだとすると、万一彼が薄信者に現われたように君にも現われたなら、君は考え直すかもしれませぬよ。

ところでもう一度考えてみて下さい。彼らは盗賊の手下に過ぎませぬ。底なき坑の王に仕えています、必要とあれば王は自分で助けにやつて来ます。そしてその

声はししのほえるようで、私自身もこの薄信者と同じようにおそわれました。【**I ペテ 5：8**】そしてそれは恐ろしいものだと分かりました。この三人の悪漢は私におそいかかって来ました。私かクリスチャンらしく抵抗し始めますと、彼らは叫び声をあげただけなのに、彼らの主はやって来たのでした。神のみ旨によって刃の立たぬ鎧を着ていなかったなら、私はことわざにもあるように、一ペニーで自分の命を売ったでもありましょう。いや、私はそのように鎧（よろ）ってはいましたが、それでも男らしく振舞うことはむずかしい仕事と分かりました。その格闘でどんな気持がするか、自分で戦ったものでなければだれにも分かりませんよ。

有望者 なるほど。ですが大恵者という者がやって来たと思惟しただけで逃げたのでしよう。

基督者 本当に、彼らもその主も、大恵者が現われたただけでよく逃げたものです。それも不思議はありません。というのは彼は王の戦士ですから。しかし私はあなたが薄信者と王の戦士とでは多少区別をなさるものと思います。王の臣がことごとく戦士だとは限りません。また試されたとき彼のようなめざましいわざのできるものでもないのです。小さな子供がダビデのようにゴリアテを取り扱うと考えることは適当でしょうか。あるいはまたみそさざいに雄牛の力があるなどと考えることも。中には強い者もあり、弱い者もあります。また大きな信仰を持つ者もあり、小さな信仰を持つ者もあります。この男は弱い者の一人で、それで負けたのです。

有望者 大恵者が来たのであったら、彼らのためによかったでしように。

基督者 もしそうだったら、彼は手一杯に戦わねばならなかったかもしれませぬ。本当を言うと、大恵者は武器をとってはすばらしい巧者で、剣先でさばいているうちはかなり巧くあしらって来たし、またそうできるのですが、もし彼らが彼の手許に入ると、臆病者でも、不信者でも、また他の者でも、必ず彼の足をすくって倒してしまうからです。人が倒れてしまったら、どうしようもないですからね。

だれでも大恵者の顔をよく見る者は、私の言うことを容易に証明するあの傷痕を見るでしよう。そうです、一度彼が、「生きる望みをさえ失ってしまった」と（しかも格闘中に）言うのを聞きました。【**II コリ 1：8**】これらの頑強な曲者とその仲間はいかにダビデをうめかせ嘆かせ叫ばせたことではしよう。そうです、ヘマンとヒゼキアも当時の戦士でしたが、これらの者に襲われたときには、奮戦しなくてはなりません。【**I 列 4：31、II 列 18 章**】それでさえ彼らは外衣をしたたか打たれたのでした。ペテロはあるとき、自分に何ができるか試してみました。しかし彼は使徒のかしらであるという者さえあるのに、ついに取るにも足らぬ少女を恐れたほどに彼らからあしらわれました。【**マタ 26：69-72**】

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい